

## コロナ新規入院最多更新 医師「連休後に医療崩壊も」 感染者、警報レベル迫る 沖縄

2024.7.6 琉球新報

県は5日、県内53定点医療機関で6月24～30日の1週間に報告された新規の新型コロナウイルス感染者数が2週連続で増え、1医療機関当たり29・91人になったと公表した。都道府県別で最多。インフルエンザの場合に警報レベルの基準となる30人に迫る勢いとなっている。基幹定点医療機関7カ所でのコロナ感染による新規入院患者も165人となり、今年最多を更新。医師らは「無警戒なままでは7月の3連休後に医療崩壊が起きる」と警鐘を鳴らした。

基幹定点医療機関の新規入院は4週連続で100人を超えた。熱中症による救急搬送も増え、病床の確保がますます厳しくなっている。医療機関から「このままだと急性期医療を維持できない」と危ぶむ声上がる。

県によると、24～30日の新規感染者のうち60歳以上は約45%。新規入院患者では60歳以上が約81%を占める。重症化の傾向が高齢者に顕著な一方、子どもの入院も増えて1歳未満が5人、1～9歳が4人だった。

那覇市医師会副会長の玉井修さんは「インフルエンザなら警報クラスの現状なのに県民に警戒感がない。老人会の行事にマスクなしで参加したり、咳があるのにイベントに出かけたりなどが続くと大変なことになる」と訴えた。

(宮沢之祐)

### <コロナかな?と思ったら>感染時や子ども受診のポイント

軽症なら日中受診を 救急逼迫で県が呼び掛け

新型コロナウイルス感染者急増により県内医療機関が逼迫(ひっぱく)しています。

医療機関を守るために県がホームページに掲載している県民への「お願い」や、県感染症医療確保課が作成した「子どもを見守るポイント」などを基に、感染防止策や感染時の留意点をまとめました。

**【感染拡大防止策】** 発熱など体調不良時は外出を控える。手洗いや換気などの対策を継続する。医療機関や高齢者施設でマスクを着用する。各家庭で3日分の食料と抗原キット、解熱剤などの医薬品を準備する。

**新型コロナウイルス感染時の留意点**

- 軽症の場合や検査目的での緊急病院受診は控える
- 重症化リスクのある人、症状が重い場合はかかりつけ医に相談
- ※できるだけ日中に受診
- 緊急外来に長時間の電話を求めない

発熱コールセンター  
☎098-866-2129

**【発症時の対応】** 軽症の場合や検査目的での救急病院の受診は控える。高齢者や妊婦、透析患者など重症化リスクのある人や症状が重い場合は、かかりつけ医に相談の上、できるだけ日中に受診する。緊急外来に長時間の電話対応を求めない。受診医療機関に迷う場合は発熱コールセンター、電話098(866)2129。

**【子どもの感染】** 感染した子どもが急いで受診すべき状態は、呼吸が苦しそう、呼吸が速い、嘔吐(おうと)や下痢が頻回で半日以上排尿がない、初めてけいれんした、生後3カ月以内の

赤ちゃんで38度以上の発熱が続くなど。子どもの医療相談は小児救急電話相談、電話#8000。(西田悠)